

---

# 経済理論 I (マクロ経済学)

柳原 光芳

第1回

# 教科書・参考文献

- 水野・河合・竹内「現代経済学」中央経済社、3400円＋税
- 浅子・加納・倉澤 「マクロ経済学」 新世社、2800円＋税
- 中谷巖 「入門マクロ経済学(第4版)」 日本評論社、3000円＋税
  - 大竹文雄「スタディガイド入門マクロ経済学(第3版)」日本評論社、1700円＋税
- 吉川洋 「マクロ経済学」 岩波書店、2430円＋税
- ドーンブッシュ・フィッシャー 「マクロ経済学(改訂版)上・下」 CAP出版、3700円、3800円
- J.E.スティグリッツ 「マクロ経済学」 東洋経済、4500円
  - L.W.マーチン (藪下史郎ほか 訳)「スタディガイド スティグリッツ マクロ経済学」 東洋経済、3000円＋税
- マンキュー(足立英之ほか 訳) 「マクロ経済学 I<入門篇>・II<応用篇>」 東洋経済、3800円＋税、3000円＋税
- 井堀利弘「マクロ経済学入門(第2版)」新世社

# 講義で扱う内容

1. 概論(第1章・第3章)
2. 国民経済計算(第12章)
3. GDPの決定その1(第13章)
4. GDPの決定その2(第13章)
5. 消費と貯蓄(第14章)
6. 投資(第15章)
7. 貨幣(第16章)
8. IS-LM分析その1(第17章)
9. IS-LM分析その2(第17章)

# 第1講：経済とは？マクロ経済学 とは？ (第1章・第3章)

- なぜ「経済学」を学ぶ必要があるのか。
- なぜ「経済学」は経済モデル・数学を使うのか。
- 「マクロ経済学」はどのようにして発展してきたか。
- ケインズ経済学におけるマクロ経済学の基本的な考え方はいかなるものか。

# 1 「経済」とは？

けい-ざい【経済】

[広辞苑第五版]

- (1) [文中子礼楽]国を治め人民を救うこと。**経国済民**。政治。
- (2) (economy) 人間の共同生活の基礎をなす**財・サービスの生産・分配・消費の行為・過程**、並びにそれを通じて形成される人と人との社会関係の総体。転じて、金銭のやりくり。

参考: けい【経】

- (1) 織物のたていと。たて。「経緯」
- (3) すじ道をたどること。通り過ぎること。へること。「経過・経験」
- (4) すじ道。不変なもの。つね。「経常・経費」
- (5) 物事のすじ道。道理。のり。それらを述作した聖賢の書。「経書・経典」→経史子集。
- (6) すじ道をつけること。はかり、治めること。管理すること。「経営・経済」

# 1 「経済」とは？

けい-ざい【経済】

[広辞苑第五版]

- (1) [文中子礼楽] 国を治め人民を救うこと。経国済民。政治。
- (2) (economy) 人間の共同生活の基礎をなす財・サービスの生産・分配・消費の行為・過程、並びにそれを通じて形成される人と人との社会関係の総体。転じて、金銭のやりくり。

参考: けい【経】

- (6) すじ道をつけること。はかり、治めること。管理すること。「経営・経済」

参考: さい【済】

- (2) すくうこと。たすけること。「済世・救済・経済けいざい」

「経済」＝「国を治め、民をすくう」(東洋的)

「economy」＝人間の活動のあり方・あるべき姿(西洋的)

## 2「モデル」とは？(1-5)

目的: 経済政策の効果を見る...量的=「定量分析」  
...質的=「定性分析」

方法: ①現実の経済を如何に把握するか？

現実(描写不可能)

モデル(描写可能)

複雑

→**仮定**→

単純

②モデルはどのように作られるか？

(1つの)モデルからは誰が扱っても必ず同じ結論  
を導く(**論理の一貫性**)←数学(的手法)の導入

※ モデルの**仮定の重要性**

③Cool head & Warm heart

### 3 (マクロ)経済学の展開(2-2・4)

(1) アダム・スミス『国富論』 **古典派経済学** 1770代～

「経済人」=自己利益の追求を行う人間

⇒ 最適化行動 (消費者=効用)

(生産者=利潤)

「神の見えざる手」=人間の自己利益追求の結果としての  
市場均衡

(2) 限界革命(ジェボンズ・ワルラス・メンガー) 1870代～

**新古典派経済学**

「総効用」の最大化に必要な「**限界効用**」

各市場で価格が提示され、超過需要・均衡・超過供給が決定  
**一般均衡**の達成

### 3 マクロ経済学の展開(2-5)

(3)ケインズ革命

ケインズ(派)経済学

1930代～

(フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』より引用)

世界恐慌:発端

第一次世界大戦終了後、アメリカは戦後復興の援助によって「永遠の繁栄」と呼ばれる栄光を手に入れたものの、すでに農業の機械化による農業恐慌が起こっていた。また、ヨーロッパの復興が次第に進むにつれ、次第にアメリカ国内の生産が過剰になっていった。そして「**暗黒の木曜日**」と呼ばれる**1929年10月24日**の10:25、ジェネラルモーターズ株価が80セント下落したのをきっかけに、市場は売り一色となり、株価は大暴落した。アメリカに完全に依存しきっていた各国の経済も次々と破綻することになる。

### 3 マクロ経済学の展開(2-5)

(3)ケインズ革命

ケインズ(派)経済学

1930代～

大不況における均衡メカニズムの麻痺

⇒ 経済は「なぜか」価格が自由に動かない

= **非自発的失業**の発生

『雇用、利子および貨幣の一般理論』における**有効需要**  
需要が供給を決定する=**総需要管理**の重要性

ケインズ経済学の「理論的」枠組みの提示

=「**IS-LM分析**」(ヒックス)

## 4 実証分析と規範分析(3-2)

実証分析 = 事実を客観的に捉える  
科学的に捉える

例: 政府が公共投資を増大させると、GDPが増大する  
政府が公共投資を増大させても、GDPは変化しない

規範分析 = 「どうあるべきか」を主観的に捉える  
ある**価値判断**のもとに政策目標が設定される

例: 政府は民間の経済活動が活発でない地方において  
公共投資を増大させるべきだ  
政府はより民間の経済活動を活発化させるために  
都市部において公共投資を増大させるべきだ

## 5 マクロ経済学とは？(3-4)

マクロ = 巨視的

一国全体を扱う  
(日本、中国など)

集合体としての消費者、生産者

集計されたデータ  
(GNP、失業率、経済成長率、  
インフレ率など)

ミクロ = 微視的

対象 個別市場を扱う  
(労働市場・みかんの市場など)

経済主体 1消費者、1生産者

データ 個人・個別市場のデータ  
(米の消費量など)